

平成24年5月31日

岡山県知事 石井 正弘 様

後楽園魅力向上委員会

会長 黒瀬 仁志

岡山後楽園の課題について（報告）

後楽園魅力向上委員会は、平成13年4月に設置された後楽園魅力づくり実行委員会から、新たな魅力の創造という後楽園魅力づくり事業の目的を受け継ぐことに加え、周辺地域の資源や施設等との連携を一層強め、「経営」の観点を取り入れることにより、後楽園が文化財庭園である観光施設として自立できるような運営を目指すこととして、後楽園魅力づくり実行委員会を平成23年4月に改組したものです。

後楽園魅力向上委員会では、後楽園の一層の活性化を目指し、まずは現在の後楽園にどのような課題があるのかを抽出し、議論してきました。その結果として、主な課題を別紙のとおりまとめたので報告します。

今回の課題の抽出は、委員による県民目線のフリートーキングとし、多少荒削りであっても委員の思いをストレートに取りまとめています。その目的とするところは、全ての課題を並列に採りあげて行政や県民の共通認識とすることにより、今後の議論の基礎資料として記録に残すことにあります。

今後は、後楽園利用者や有識者などの意見も聞きながら、短期的課題や、中・長期的な取り組みが必要な課題などに整理したいと考えています。そのうえで、第3次おかやま夢づくりプランの基本的な方針を踏まえながら、課題解決に向けた方策を検討し、その成果を知事に提言させていただきます。

課題1 危機意識を持って戦略的に「観光立県」を

岡山県は、平成20年度に「観光立県」を宣言しましたが、県としてもっと危機感を持って観光施策に取り組むべきです。実際、民間の調査では、中国地方内だけをみても、岡山県の観光関係への予算比率は他県に比して低くなっています。

岡山県には、歴史、観光地や物産など観光素材は豊富ですが、それ故か、付加価値という味付けがなされておらず、消費者にとっては魅力を感じにくくなっています。やはり、国内外の観光客や県民などターゲットを明らかにし、課題のごとの優先順位に基づき、期間を定めて数値目標を設定するなど明確な戦略が必要です。また、個々の観光施設を一体的にPRして「面・エリア」として打ち出すなどの工夫も求められるでしょう。

また、県と市町村、産業界や教育等、様々な立場と視点で、一層連携して取り組む必要があると感じられます。

課題2 後楽園は観光客の滞在時間が短く、収益構造が弱い

団体旅行で来園される観光客の後楽園における滞在時間は1時間未満で設定されていることが多いように感じられます。

旅行会社における後楽園のランクはAA～DランクのうちBランク（観光客を半日遊ばせることができない観光地）と聞いています。このランク付けは、観光地を訪れた人々がどのくらいの時間を過ごせるか、という視点で評価されています。つまり、後楽園は物販・飲食・休憩機能などが貧弱で、周辺エリアを含めても1時間以上は楽しめないということです。

また、観光施設という側面をもっているにも関わらず旅行会社にとってツアーに組み込む魅力に乏しくなっているようです。できるだけ、旅行会社や周辺施設等とも連携し、観光客の滞在時間を延ばして帰りの足を奪えば、周辺ホテル等への経済波及効果もあります。

さらに、収益構造として、入園料つまり入園者数の増加による収入確保のみに頼り、「お金を落とさせる」仕組みが出来ていません。

平成22年に入園料の改定がなされましたが、公の施設であることから高齢者は低額に抑えられているため、入園者数が大幅に増加しない限り、高齢化が進む中、依然として収入は伸び悩むと推測されます。また、観光施策として団体客等の誘客を促進する入

園料減免措置なども必要であり、入園料収入に過度に依存しては収支状況の好転は見込めないと考えます。入園料以外の収入源を確保し、さらに、外園利用者からもお金を落とさせる工夫が必要です。

課題3 後樂園周辺エリアや施設とのコミュニケーションが不足し、県市の動きも鈍い

周辺エリアや施設とのコミュニケーションや連携した PR が不可欠であるにも関わらず、そのことに対する県や市の認識が低く、全体をコーディネートする人が不在です。

従来から、出石町と後樂園、カルチャーゾーン内の回遊性が叫ばれ、NPO 法人などがその方策を模索しているところですが、県や市は認知しているにも関わらず積極的に関わり具体的な行動に移しているとはいえません。後樂園とその周囲に観光客を誘導し受け入れる物販や飲食施設が少なく、駅から後樂園に至るまでに歩いて楽しめる工夫が見られません。また後樂園までの誘導看板がわかりづらいという声も未だに消えていません。

特に、後樂園は岡山城との連携が不可欠ですが、所管する自治体が異なるため、スムーズな連携が見られません。

さらに、後樂園敷地内にある県立博物館の活用や連携が十分取られていないことも問題です。将来的には県立博物館は移転することが計画されており、それを踏まえた長期的な検討とともに、今ある博物館の上手な活用を併せて検討する必要があります。

課題4 県民にとって後樂園が日常的に親しめる場所となっていない

後樂園を含めた岡山の歴史に関する知識・情報が県民に乏しく、興味を持ってもらえない状況にあります。また、外園を含め気軽に来られる物販・飲食等の施設がなく、県民主権のイベントもあまり開催されていないようです。一度訪れたら10年以上立ち寄っていないという県民も珍しくなく、リピーターが少ないと思われます。

県民に後樂園を身近に感じてもらえるよう、マスコミが記事にしやすい情報提供の仕方を工夫したり、外園を気楽に利用してもらえる仕掛けを検討するなど、日常的に親しまれる場所とすることが大切です。県民自身が後樂園のよさや文化財としての重要性を理解したうえで、これを存分に楽しむことができれば、さらに、国内外の観光客を心からもてなす役割も担うことが期待できます。

課題5 子どもたちの郷土愛が希薄

子どもたちの後樂園ひいては「岡山」の歴史価値に対する認識が欠けていることにより「岡山」への郷土愛が育まれていないようです。「岡山」の地名の由来さえ知らないといったように、青少年に地元の歴史知識が十分でないことは残念なことです。

岡山城と後樂園はそれぞれ作られた時代背景が異なりますが、セットで考えることでそのまま現在の岡山の成り立ちの歴史となります。学校教育の中に岡山城や後樂園を利用した郷土の歴史の授業を設けるなど、新たな後樂園の活用方法を検討していただきたいと考えます。

ある調査では、「郷土愛が少ないほど観光客の誘致に消極的」という傾向がある（岡山県は44位）ことから、子どもたちの郷土愛を育てることは、将来的な観光施策にも資することと考えます。